

児童の自己指導能力を高める支援の工夫

—— 中1ギャップの改善を目指す「中活ブック」の作成と活用を通して ——

長期研修員 千木良 昌計

《研究の概要》

本研究は、児童の自己指導能力を高め、中1ギャップの改善を目指す「中活ブック（児童用&教師用）」を作成し、総合的な学習の時間と校内研修において活用した。総合的な学習の時間では、小学校6年生を対象にOODAループ（O:みつめる、O:わかる、D:きめる、A:うごく）を活用しながら、実践の中で児童が決断と実行を繰り返し行い、中学校進学への自信と希望を実感できるようにした。学習してきたことをまとめることで、児童一人一人がオリジナルの「中活ブック（児童用）」を完成させた。校内研修では、「中活ブック（教師用）」を用い、「自己指導能力の獲得を支える生徒指導の実践上の『4つの視点』」を踏まえた授業づくりや「チーム学校」による生徒指導体制について共通理解を図り、「発達支持的生徒指導」や「チーム学校」の工夫の一助とした。

キーワード【生徒指導 自己指導能力 中1ギャップ 中活ブック OODAループ】

群馬県総合教育センター

分類記号：F08-01 令和5年度 282集

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

<各社の商標又は登録商標>

Google Jamboard は、Google LLC の商標又は登録商標です。

オクリンクはベネッセコーポレーションの商標又は登録商標です。

Canva は、Canva の商標又は登録商標です。

なお、本文中には ™ マーク、® マークは明記していません。

I 主題設定の理由

近年、世界的に感染症の大流行や戦争など様々な出来事が、かつてない規模やタイミングで起こり、状況は年々複雑となり、どのような出来事が起こっているのか、これからどうなるのか、どの情報が正しいのかなど不透明な状態、いわゆるVUCAの時代に入ったと言われている。このような時代を生きていく児童にとって、予測困難な変化に対応し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていく力が必要となる。ここで必要となる力こそ、生徒指導の目的を達成するために重要な自己指導能力であると考えた。

我が国においても、産業界を中心に議論されてきたVUCAは教育問題についても見直すきっかけになっている。現在、学校現場では、不登校、いじめ、問題行動などの問題が山積している。「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」(文部科学省)では、小中学校における不登校児童生徒数は299,048人(前年度244,940人)と過去最多であり、10年連続増加の結果となっている。また、小学校6年生の不登校児童は30,771人(前年度25,004人)、中学校1年生では53,770人(前年度45,778人)であり、この学年間で最も急激に上昇していることが分かる。

また、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの生徒指導リーフ「『中1ギャップ』の真実」(平成26年4月)¹⁾では、「中学校で顕在化する問題も、実は小学校から」「小学校からの連続性に注目することで、中学校の問題を解消する」と述べ、中学校区が抱える地域・家庭・児童生徒の課題を見据え、教師や学校が取り組むべき課題を見極める必要性を示している。

このような状況も踏まえ、令和4年12月に「生徒指導提要」が時代の変化に即して改訂された。この「生徒指導提要」では、特に「発達支持的生徒指導」「チーム学校」の重要性が示されるとともに、児童生徒の自己指導能力の獲得を支える生徒指導の実践上の視点として、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」(以下、「4つの視点」)が示されている。また、文部科学省は、「小学校学習指導要領」(平成29年3月告示)²⁾において、児童の発達の支援について、「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。(中略)小学校の低学年、中学年、高学年の学年の時期の特長を生かした指導の工夫を行うこと。」と述べている。さらに、学校段階等間の接続を行う上で重要なこととして、「中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。」とも述べている。

さらに、研究協力校では、生徒指導における月例報告から、年々不登校欠席児童や不登校傾向児童の増加傾向が見られる。その理由として、無気力、不安、家庭環境、いじめ以外の友達関係などが挙げられ、複合的に影響しているケースも多く見られる。また、年2回行われる小中学校合同の情報交換会において、中学校に進学してから学校生活に適応できず、不登校になったり別室登校になったりしてしまう生徒が多くいることも分かっている。それは、中学校進学に伴い中学校での学校生活や友人関係、環境の変化などに馴染めず、悩みを抱えている生徒が多くいることが要因であると考えられる。

そこで、本研究を通して、「発達支持的生徒指導」に重点を置いた多様な教育活動から、児童が主体的、自発的、自律的に課題に挑戦していくことや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性などを実感することが有効である。そして、教師や学校は、学校内だけでなく中学校や外部機関などとの連携を深め、学習における「チーム学校」としての生徒指導体制を充実させる中で、義務教育の9年間を見通して自己指導能力を育むことが大切である。また、最高学年であり、小学校卒業や中学校進学を控えたことで、児童の様々な不安が高まり、不登校やその予備軍が増えるとされる6年生に焦点を絞り、1年間を見通した計画的な実践を行っていくことが重要である。小学校において、この自己指導能力を高めることができれば、中1ギャップの改善にもつながると考えた。

以上のことから、本研究では、中1ギャップの改善を目指す「中活ブック(児童用&教師用)」の作成と活用を中心とし、児童が、中学校生活の課題について主体的、自発的、自律的に探究できるような実践に取り組んでいく。このような実践を通して、児童の自己指導能力を高めつつ、中学校進学へ自信と希望を手に入れることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中1ギャップの改善を目指す「中活ブック（児童用&教師用）」の作成と活用をすることは、児童の自己指導能力を高めるための支援となり、児童が中学校進学へ自信と希望を手に入れるために有効であることを明らかにする。

III 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 研究上のキーワードの定義

① 「中活」について

本研究では、中1ギャップの改善を目指し、小学校6年生を対象に「中活」の実践を行う。「中活」とは、中学校進学に向けて準備をする活動のことを意味する。また、ここでいう準備とは、小学校6年生が自信と希望を手に入れ安心して中学校へ進学するために、自己指導能力を高める取組を意味する。さらに、「中活」を支える「中活サポーターズ」（友達・中学生・保護者・担任・養護教諭・校長・中学校教員・教育委員会・適応指導教室指導員・スクールカウンセラー）が「中活」の活動の中で様々な形で支援に入る。この「中活サポーターズ」が小学校卒業後もいつでも頼りになる身近な存在であることに気付き、自信と希望をもって今後の学校生活を送れるようになると考えた。

このような自己指導能力を高める小学校からの「発達支持的生徒指導」や「チーム学校」の工夫が中1ギャップの改善につながると考えた。

② 「自己指導能力を高め、中学校進学へ自信と希望を手に入れる児童」について

「生徒指導提要」³⁾では、自己指導能力を「児童生徒が、深い自己理解に基づき、『何をしたいのか』、『何をすべきか』、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力」と定義されている。

本研究では、この定義から「自己指導能力を高める児童」については、「自らの行動を判断して決断する『決断力』と、それを実際に行動へと移す『実行力』を高める児童」とする。

また、「中学校進学へ自信と希望を手に入れる児童」については、「中学校進学に向けて、『自信』が増し、中学校に対する印象が前向きになることで、『楽しみ』の気持ちが高まり、『不安』の気持ちが低下する児童」とする。

このような「決断力」「実行力」「自信」「楽しみ」「不安」に焦点を当て、「中活」の実践を積み重ねることで、それらの児童の変化や児童の実感を検証した。

③ 生徒指導の実践上の「4つの視点」を踏まえた授業について

「生徒指導提要」では、児童の自己指導能力の獲得を支える生徒指導の実践上の視点として、「4つの視点」が示されている。授業実践では、この「4つの視点」を重視し、授業で意識的に教師が支援を行うようにした。

「自己存在感の感受」については、児童の意見を受け入れ、発言する機会を確保することやGoogle Jamboardを使って児童の気付きや疑問を出し合うことなどを取り入れた。2つ目の「共感的な人間関係の育成」については、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童同士の関わりが多くなるような児童主体の時間を設けることや具体的な行動を設定し決断できるように、児童がペアとなり実行していきたい行動の内容を確認し合うことなどを取り入れた。3つ目の「自己決定の場の提供」については、単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、一単位時間内での児童の頑張りを称賛し、目標や行動を自己決定できるように助言することや主体的に自己決定しながら活動できるように、ビジュアルツールキットであるCanvaを使って一人一人自由に「中活ブック（児童用）」の表紙を作成する活動などを取り入れた。4つ目の「安全・安心な風土の醸成」については、互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるように授

業内容に関連したアイスブレイク（アドジャン・膝叩きゲームなど）を行うことや児童の本時までの取組や授業内での頑張りを称賛することなどを取り入れた。

教師が、このような「4つの視点」における具体的な支援を「中活」の実践の中で意識的に取り入れることによって、児童の自己指導能力が高まっていくと考えた。

④ 「OODAループ」を活用した総合的な学習の時間について

「生徒指導提要」における自己指導能力の定義や「探究的な学習における児童の学習の姿」に、「OODAループ」のフレームワークが合致していると考えた。「OODAループ」は、「様々な環境の変化に対して、柔軟にスピード感をもって正しい意思決定をするフレームワーク」を意味する。はじめに、この「OODAループ」の「O:Observe みつめる」では、「探究的な学習における児童の学習の姿」の「課題の

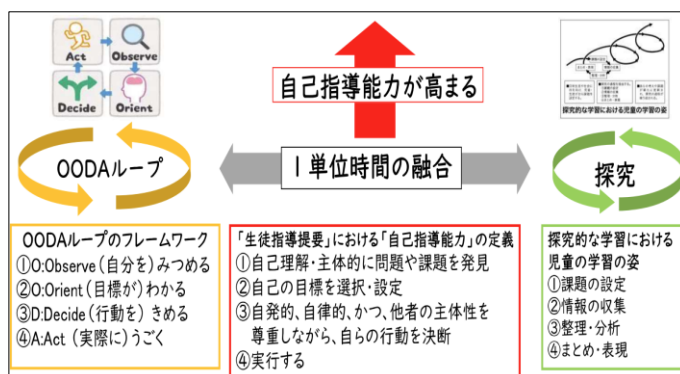


図1 「OODAループ」を活用した学習活動

設定」の過程において、自分自身を「みつめる」ことでその時間の学習内容に関わる問題や課題を発見する。次に、「O:Orient わかる」では、授業の「情報の収集」の過程において、学習課題に対する情報の収集をすることで自分自身の問題や課題に対する自分自身の目標が「わかる」ことを目指す。そして、「D:Decide:きめる」では、授業の「整理・分析」の過程において、学校や家庭で実践していく自分自身の行動を「きめる」ことを目指す。最後に、「A:Act うごく」では、授業の「まとめ・表現」の過程において、授業後の日々の学校生活、家庭の中で、実際に「うごく」ことで、自分自身で決断した行動を実行していくことを目指す。

本研究では、こうした一連の「OODAループ」のフレームワークを基に中学校で起こり得る状況や抱える悩みについて探究していく学習における児童の学習の姿を融合させ、一単位時間の中の小さなループを「中活」の実践で積み重ねることによって、児童が自己指導能力を高め、中学校進学へ自信と希望を手に入れることができ、中1ギャップの改善につながると考えた。

2 教材の概要

(1) 「中活ブック（児童用）」について

「中活ブック（児童用）」は、児童が自己指導能力を高め、中学校進学へ自信と希望を手に入れることができるよう、中1ギャップの改善を目指すために児童が総合的な学習の時間で作成するものである。この本は、「第1章 中学校に向けて大切な考え方～『自己指導能力』『OODAループ』～」「第2章 中活シート集～授業で考えたこと・学んだこと～」「第3章 中活サポーターズからのエール～たくさんの人からの励ましの言葉～」「第4章 中活の振り返り・フリースペース」という構成になっている。これらの内容を自分でまとめ、学んだことを振り返ったり、今後の生活の励みにしたりすることで活用できるものとした。また、児童が自分で作成した「中活ブック（児童用）」をキャリアパスポートに保管することで、中学校進学後も児童の心の拠り所として御守りとなることを望んでいる。さらに、教師が「中活ブック（児童用）」を写真データとして保存し引き継ぐことで、次年度の6年生が「中活」の学習の見通しをもち、意欲的に学習できるように活用していく。

(2) 「中活ブック（教師用）」について

「中活ブック（教師用）」は、児童が自己指導能力を高め、中学校進学へ自信と希望を手に入れることができるよう、中1ギャップの改善を目指すために教師が校内研修や授業実践で活用するものである。この本は、「第1章 基本編 自己指導能力と『4つの視点』・チーム学校における生徒指導体制」「第2章 実践編 『4つの視点』を踏まえた総合的な学習の時間における実践例・中活シート集」という構成になっている。これらの内容について共通理解と連携を図り、「発達支持的生徒指導」や「チーム学校」の工夫の一助とした。

3 研究構想図



IV 研究の計画と方法

1 実践の概要

(1) 「中活ブック（児童用）」の作成・活用と「中活ブック（教師用）」の活用(総合的な学習の時間における授業実践)

研究協力校において、6年生を対象に次のように総合的な学習の時間における授業実践を行った。授業実践の内容については、中学校生活で悩んだり、考えたりするであろう問題を取り上げた。その問題に対して、一単位時間の中でOODAループを活用しながら、自己指導能力が高まる学習支援を繰り返し行った。また、各単元の課題解決に適した「中活サポーターズ」を外部講師として依頼した。

実践日	☆単位時間の課題 ■ねらい
8月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・探究課題「自信と希望を手に入れよう！始めよう中活！」 ・単元の課題「中学校生活の課題を捉え、自信と希望を手に入れよう」 ■探究課題と出会い、単元の課題を把握することを通して、今後の学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組んでいけるようにする。
9月6日	<ul style="list-style-type: none"> ☆「中学校ってどんなところ？」～中学校生活の様子や悩みを知ろう～ ■中学生との交流を通して、中学校生活の理解を深めるとともに、中学校生活の見通しをもつことができるようにする。
9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ☆「よりよい人間関係」～コミュニケーションスキル(挨拶の仕方)をマスターしよう～ ■コミュニケーションスキル(挨拶の仕方)を身に付けていくことを通して、よりよい人間関係を築くことができるようにする。
10月12日	<ul style="list-style-type: none"> ☆「ストレスの対処」～自分なりのストレス対処法を考えよう～ ■ストレスを上手に乗り越えるための方法を学ぶことを通して、自分なりのストレス対処法を見付けることができるようにする。
10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ☆「よりよい生活習慣」～自分の生活習慣(食事・運動・睡眠)を見直そう～ ■よりよい生活習慣(食事・運動・睡眠)について調べる活動を通して、自分の生活習慣を見直し改善できるようにする。
10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ☆「思春期の変化」～自分の欲求をコントロールできるようになろう～ ■思春期に起こる様々な欲求について話し合ったり考えたりする活動を通して、思春期の心の変化を前向きに受け、自分の欲求をコントロールすることができるようにする。

11月1日	☆「未来の自分」～未来の自分について考えよう～ ■将来の目標や短期的な目標を設定することを通して、目標に向けた取組を実践できるようにする。
11月14日	☆「中活ブック」の表紙をデザインしよう！ ■「中活ブック」の表紙をデザインすることを通して、「中活」のまとめを主体的に取り組めるようにする。
11月15日	☆「中活ブック」を完成させよう！ ■これまでの学習を振り返ることを通して、オリジナルの「中活ブック」を作成し、中学校進学への自信や希望をもつことができるようにする。

(2) 「中活ブック（教師用）」の活用（校内研修・授業実践）

研究協力校において、職員を対象に次のように校内研修や授業実践を行った。

対象	研究協力校 職員40名
実施期間	校内研修：令和5年8月25日 授業実践：各実践日
活動	校内研修において、「中活ブック（児童用&教師用）」の作成と活用の仕方を説明した。「中活ブック」を使い、「4つの視点」「中学校生活の課題を探究していくこと」「OODAループの活用」「中活サポーターズの活用」などの生徒指導の基本について説明を行い、共通理解を図った。また、各授業実践では授業公開をし、参観することで、具体的に「中活ブック」の内容をイメージし、校内研修での学びをより深めた。

2 検証計画

(1) 「中活ブック（児童用）」について

検証の観点	検証の内容	検証の方法
「中活ブック（児童用）」の作成と活用をしていくことは、児童の自己指導能力を高め、中学校進学への自信と希望を手に入れるために有効であったか。	学校生活や普段の生活における児童の自己指導能力の高まりの変化 ①自分自身を見つめ、自分の問題や課題を発見することができるか。 ②自分の問題や課題に対する目標を立てているか。 ③目標の達成のために自分の行動を決断できているか。 ④決断したことを実行できているか。 ※四件法のアンケートを実施	・6学年担任（3名）へのアンケート・聞き取り調査（7月、12月） ・児童へのアンケート調査「中活アンケート」（7月、12月） ・児童の記述・行動（ワークシート・授業実践中・授業実践後・「中活ブック（児童用）」）
	中学校進学への自信と希望の高まりの変化 ①中学校進学に向けて「楽しみ」や「不安」の気持ちはどのくらいか。 ※四件法のアンケートを実施	①児童へのアンケート「中学校進学に関するアンケート」調査（7月、12月）
	②中学校はどのような場所か。 ※KH coder（共起ネットワーク）を使用 「KH coder」は、テキストマイニングツール。「共起ネットワーク」コマンドを用いて、出現パターンの似通った語（共起の程度が強い語と捉える）を線で結んだネットワーク図を作成する。 ③中学校進学に対する自信はどれくらいあるか。（それを選んだ理由） ※四件法のアンケートを実施	②児童へのアンケート「中学校進学に関するアンケート」調査（7月、12月） ③児童へのアンケート「中学校進学に関するアンケート」調査（7月、12月）

(2) 「中活ブック（教師用）」について

検証の観点	検証内容	検証方法
「中活ブック（教師用）」は、児童の自己指導能力を高める支援をねらった教師向けの資料として有効であったか。	・「中活ブック（教師用）」の参考になったところはどこか。 ・「中活ブック（教師用）」が自己指導能力を高める手立てとして有効であったか。	・全教師へのアンケート・聞き取り調査（8月、12月） ・6学年担任（3名）へのアンケート・聞き取り調査（8月、12月）



3 実践

(1) 「中活ブック（児童用）」の作成と「中活ブック（教師用）」の活用（「中活」の授業実践）

<p>実践 ①</p>	<p>☆課題 ■ねらい □主な活動 ◇外部講師（T2）★ICT活用に関する事項 ☆探究課題「自信と希望を手に入れよう！始めよう中活！」と出会う。 ・「中学校進学に関するアンケート」の結果について話し合う。（★共有） ☆単元の課題「中学校生活の課題を捉え、自信と希望を手に入れよう」を把握する。 ・中学生（1～3年生）に実施した「学校生活アンケート」の結果を基に班ごとに分かったことを話し合う。（★共有・共同編集） ■探究課題と出会い、単元の課題を把握することを通して、今後の学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組んでいけるようにする。 □追究の見通しをもつ。 ・単元を通して大切な考え方や「中活ブック」「中活サポーターズ」について確認する。 ・職場体験で来る中学生に、自分の不安なことや中学校のよいところについて聞いてみたいことを考える。（★入力） □本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 ・ワークシート（中活シート）に本時の振り返りを書く。</p>	<p>◎「中活ブック（教師用）」を活用した教師の支援 ◎自己存在感を実感できるように、どんな意見も受け入れ、発言のチャンスを与える（図1）。  図1 発言のチャンスを与える様子 ◎単元の課題を把握する上で、自己存在感を実感できるように、Google Jamboard を使って班ごとに児童の気付きや疑問を出し合う。 ◎本単元で意識していきたい「自己指導能力」や「OODAループ」の考え方を確認する。 ◎自己存在感を実感できるように、1人1台端末を使って児童の気付きや疑問を出し合う。 ◎単元を通して、安心して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを称賛する。</p>
<p>実践 ②</p>	<p>☆「中学校ってどんなところ？」～中学校生活の様子や悩みを知ろう～ ■中学生との交流を通して、中学校生活の理解を深めるとともに、中学校生活の見通しをもつことができるようにする。 ◇中学校2年生6名 □課題の設定 ・本時の課題について全体で確認する。 ・自分の生活を振り返る。 ・中学生や班のメンバーとアイスブレイク（アドジャン）をする。 □情報の収集  図2 インタビューの様子 ・中学生にインタビューをして、中学校生活の様子や悩みを聞く。また、それらについて、どのように取り組んだり、乗り越えたりしてきたかを聞く（図2）。 ・中学生から励ましのエールをもらう。 ・学習課題に対する情報から自分の目標を考える。 □整理・分析 ・これからの生活で実行していきたい行動を決める。</p>	<p>◎自分自身の生活の課題を発見することができるように、課題の設定の過程を「OODAループ」の「O：みつめる」として確認する。 ◎互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるようにアイスブレイク（アドジャン）をして安全・安心な風土の醸成に留意する。 ◎一人一人が発言できるように、前時に1人1台端末でまとめた質問事項を順番に聞き、自己存在感の感受に留意する。 ◎互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童生徒主体の時間を設け、共感的な人間関係に留意する。 ◎学習課題に対する情報を収集し、自分自身の目標を選択・設定できるように、情報収集の過程を「OODAループ」の「O：わかる」として確認する。 ◎自分自身の行動を決断できるように、整理・分析の過程を「OODAループ」の「D：きめる」として確認する。 ◎授業後の1週間、自分自身の行動を実行できるように、まとめ・表現の過程を「OODAループ」の「A：うごく」として確認する。 ◎単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを</p>

	<p>□まとめ・表現 ・学習の振り返りと次回の確認をする。</p> <p>☆「よりよい人間関係」～コミュニケーションスキル(挨拶の仕方)をマスターしよう～ ■コミュニケーションスキル(挨拶の仕方)を身に付けていくことを通して、よりよい人間関係を築くことができるようにする。</p> <p>◇適応指導教室指導員</p> <p>□課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題について全体で確認する。 ・自分自身の生活を振り返る。 ・クラス全員で、アイスブレイク(膝叩きゲーム)をする(図3)。 <p>□情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活アンケート」の結果に基づき、コミュニケーションスキル(挨拶の仕方)を学ぶ。 ・ロールプレイを使って挨拶の仕方の練習をする。 ・適応指導教室指導員の話聞く。 ・学習課題に対する情報から、よりよい人間関係をつくるための目標を考える。 <p>□整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活で実行していきたい行動を決める。 <p>□まとめ・表現 ・学習の振り返りと次回の確認をする。</p>	<p>称賛する。</p> <p>◎自分自身の生活の課題を発見することができるように、課題の設定の過程を「OODAループ」の「O:みつめる」として確認する。</p> <p>◎互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるように、アイスブレイク(膝叩きゲーム)をして安全・安心な風土の醸成に留意する。</p> <p>◎一人一人が一斉にロールプレイできるように、児童を励ましたり助言したりすることで自己存在感の感受に留意する。</p> <p>◎互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童主体の時間を設けて共感的な人間関係に留意する。</p> <p>◎学習課題に対する情報を収集し、自分自身の目標を選択・設定できるように、情報収集の過程を「OODAループ」の「O:わかる」として確認する。</p> <p>◎自分自身の行動を決断できるように、整理・分析の過程を「OODAループ」の「D:きめる」として位置付け、自己決定できるように助言する。</p> <p>◎自分自身の行動を実行できるように、まとめ・表現の過程と授業後の1週間を「OODAループ」の「A:うごく」として確認する。</p> <p>◎単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを称賛する。</p>
<p>実践 ③</p>	<p>☆「ストレスの対処」～自分なりのストレス対処法を考えよう～ ■ストレスを上手に乗り越えるための方法を学ぶことを通して、自分なりのストレス対処法を見付けることができるようにする。</p> <p>◇スクールカウンセラー</p> <p>□課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題について全体で確認する。 ・自分自身の生活を振り返る。 ・班のメンバーとアイスブレイク(ブレインストーミング)をする。 <p>□情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスの対処法について各自 Google Jamboard に入力し、その後話し合う。(★入力) ・スクールカウンセラーの話聞く(図4)。 <p></p> <p>図4 スクールカウンセラーの話の様子</p>	<p>◎自分自身の生活の課題を発見することができるように、課題の設定の過程を「OODAループ」の「O:みつめる」として確認する。</p> <p>◎互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるようにアイスブレイク(ブレインストーミング)をして安全・安心な風土の醸成に留意する。</p> <p>◎自己存在感を実感できるように、Google Jamboard を使って児童の気付きや疑問を出し合う。</p> <p>◎互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童主体の時間を設けて共感的な人間関係に留意する。</p> <p>◎学習課題に対する情報を収集し、自分自身の目標を選択・設定できるように、情報収集の過程を「OODAループ」の「O:わかる」として確認する。</p> <p>◎自分自身の行動を決断できるように、整理・分析の過程を「OODAループ」の「D:きめる」として位置付け、自己決定できるように助言する。</p> <p>◎具体的な行動を設定し決断できるように、共感的な人間関係に留意し、ペアで実行していきたい行動の内容を確認する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのストレス対処法の目標を考える。 □整理・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活で実行していききたい行動を決める。 □まとめ・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りと次回の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分自身の行動を実行できるように、まとめ・表現の過程と授業後の1週間を「OODAループ」の「A：うごく」として確認する。 ◎単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを称賛する。
<p>実践 ⑤</p>	<p>☆「よりよい生活習慣」～自分の生活習慣（食事・運動・睡眠）を見直そう～</p> <p>■よりよい生活習慣（食事・運動・睡眠）について調べる活動を通して、自分の生活習慣を見直し改善できるようにする。</p> <p>◇研究協力校養護教諭</p> <p>□課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題について全体で確認する。 ・自分自身の生活を振り返る。 ・班のメンバーとアイスブレイク（二者択一ゲーム）をする。 <p>□情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を使って、よい生活習慣（食事・運動・睡眠）について調べる。（★調べる） ・よい生活習慣について全体で共有する。（★共有） ・養護教諭の話聞く。 ・自分なりのよりよい生活習慣についての目標を考える。 <p>□整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活で実行していききたい行動を決める（図5）。 <div data-bbox="402 1189 738 1391" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">図5 行動を決める</p> <p>□まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りと次回の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分自身の生活の課題を発見することができるように、課題の設定の過程を「OODAループ」の「O：みつめる」として確認する。 ◎互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるようにアイスブレイク（二者択一ゲーム）をして安全・安心な風土の醸成に留意する。 ◎自己存在感を実感できるように、オクリンクを使って調べたことを出し合う。 ◎互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童主体の時間を設け共感的な人間関係に留意する。 ◎学習課題に対する情報を収集し、自分自身の目標を選択・設定できるように、情報収集の過程を「OODAループ」の「O：わかる」として確認する。 ◎自分自身の行動を決断できるように、整理・分析の過程を「OODAループ」の「D：きめる」として位置付け、自己決定できるように助言する。 ◎具体的な行動を設定し決断できるように、共感的な人間関係に留意し、ペアで実行していききたい行動の内容を確認する。 ◎自分自身の行動を実行できるように、まとめ・表現の過程と授業後の1週間を「OODAループ」の「A：うごく」として確認する。 ◎単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを称賛する。
<p>実践 ⑥</p>	<p>☆「思春期の変化」～自分の欲求をコントロールできるようになろう～</p> <p>■思春期に起こる様々な欲求について話し合ったり考えたりする活動を通して、思春期の心の変化を前向きに受け、自分の欲求をコントロールすることができるようにする。</p> <p>◇町教育委員会の方</p> <p>□課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題について全体で確認する。 ・自分自身の生活を振り返る。 ・クラスのみならずアイスブレイク（質問ジャンケン）をする。 <p>□情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期に起こる欲求のコントロールの仕方について、班ごとに話し合う（図6）。（★入力） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分自身の生活の課題を発見することができるように、課題の設定の過程を「OODAループ」の「O：みつめる」として確認する。 ◎互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるようにアイスブレイク（質問ジャンケン）をして安全・安心な風土の醸成に留意する。 ◎自己存在感を実感できるように、Google Jamboard を使って児童の気付きや疑問を出し合う。 ◎互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童主体の時間を設け共感的な人間関係に留意する。 ◎学習課題に対する情報を収集し、自分自身の目標を選択・設定できるように、情報収集の過程を「OODAループ」の「O：わ

	<ul style="list-style-type: none"> ・「欲求のコントロールの仕方」について全体で共有する。 (★共有) ・町教育委員会の方の話を聞く。 ・欲求をコントロールしていくための自分の目標を考える。 <p>□整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活で実行していきたい行動を決める。 <p>□まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りと次回の確認をする。 	<p>かる」として確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自分自身の行動を決断できるように、整理・分析の過程を「OODAループ」の「D：きめる」として位置付け、自己決定できるように助言する。 ◎自分自身の行動を実行できるように、まとめ・表現の過程と授業後の1週間を「OODAループ」の「A：うごく」として確認する。 ◎単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを称賛する。
実践⑦	<p>☆「未来の自分」 ～未来の自分について考えよう～</p> <p>■将来の目標や短期的な目標を設定することを通して、目標に向けた取組を実践できるようにする。</p> <p>◇校長</p> <p>□課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題について全体で確認する。 ・自分自身の生活を振り返る（図7）。  <p>図7 自分を見つめる様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班のメンバーとアイスブレイク（ポジティブしりとり）をする。 <p>□情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長の話を聞く。 ・「未来の自分」になるための自分の目標を考える。 <p>□整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活で実行していきたい行動を決める。 <p>□まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りと次回の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎指導の連続性や「OODAループ」の考え方が定着できるように、前時の学習内容の振り返りを行う。 ◎自分自身の生活の課題を発見することができるように、課題の設定の過程を「OODAループ」の「O：みつめる」として確認する。 ◎互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるようにアイスブレイク（ポジティブしりとり）をして安全・安心な風土の醸成に留意する。 ◎互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるように、児童同士で発表し合う時間を設け共感的な人間関係に留意する。 ◎学習課題に対する情報を収集し、自分自身の目標を選択・設定できるように、情報収集の過程を「OODAループ」の「O：わかる」として確認する。 ◎自分自身の行動を決断できるように、整理・分析の過程を「OODAループ」の「D：きめる」として位置付け、自己決定できるように助言する。 ◎自分自身の行動を実行できるように、まとめ・表現の過程と授業後の1週間を「OODAループ」の「A：うごく」として確認する。 ◎単元を通して主体的に学習に取り組むことができるように、本時での児童の頑張りを称賛する。
実践⑧	<p>☆「中活ブック」の表紙をデザインしよう！</p> <p>■「中活ブック」の表紙をデザインすることを通して、「中活」のまとめを主体的に取り組めるようにする。</p> <p>□本時の課題について全体で確認する。</p> <p>□これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの中活シートから学習内容を振り返る。 <p>□「中活ブック」の表紙の作り方を知り、表紙を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中活ブック」の表紙の作り方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎安心して授業が受けられるように、児童のここまでの取組や頑張りを称賛し、安全・安心な風土の醸成に留意する。 ◎自己存在感を実感できるように、児童の意見を受け入れ、発言のチャンスを与える。 ◎主体的に自己決定しながら活動できるように、Canvaを  <p>図8 児童が作成した表紙</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「中活ブック」の表紙を作成する。(★作成) ○まとめ ・本単元の振り返りをする。 	使って一人一人自由に表紙を作成する(図8)。 ◎次回も安心して単元のまとめができるように、本時の児童の頑張りを称賛する。
実践⑨	☆『中活ブック』を完成させよう！ ■これまでの学習を振り返ることを通して、オリジナルの「中活ブック」を完成させ、中学校進学への自信や希望を手に入れることができるようにする。 □本時の課題について全体で確認する。 □これまでの学習を振り返る。 ・前時までの中活シートから学習内容を振り返る。 □「中活ブック」の作り方を知り、「中活ブック」を完成させる。 ・「中活ブック」の作り方を知る。 ・クラスのみんたとエールを送り合う。 ・「中活ブック」を製本する。 □まとめ ・本単元の振り返りをする。	◎安心して授業が受けられるように、児童のここまでの取組や頑張りを称賛し、安全・安心な風土の醸成に留意する。 ◎自己存在感を実感できるように、児童の意見を受け入れ、発言のチャンスを与える。 ◎共感的な人間関係が育成されるよう、「中活ブック」の完成において班のみんたと励ましのエールを送り合う(図9)。 ◎単元の課題が探究できたか確認するために、「OODAループ」の考え方や「自己指導能力」(「決断力」と「実行力」)の高まりを振り返る。 ◎今後も安心して学校生活を送ることができるように、本単元での児童の頑張りを称賛する。



図9 エールを送り合う様子

(2) 「中活ブック(教師用)」の活用(校内研修・授業実践)

実践日	ねらい	実践の様子
校内研修 8月25日	「中活ブック(教師用)」の内容である「生徒指導の基礎」「授業プランの紹介」「チーム学校による生徒指導体制」について共通理解を図り、「中活ブック(教師用)」を用いた実践の仕方を知る。	夏休みに設定されている校内研修を利用して、「中活ブック(児童用&教師用)」の作成と活用の仕方を説明した(図10)。 また、「中活ブック」を使い、「4つの視点」「中学校生活の課題を探究していくこと」「OODAループの活用」「中活サポーターズの活用」等の生徒指導の基本について説明を行い、共通理解を図った。 研修後は、Google Formsでアンケートを実施し、職員からの意見や質問を、その後の実践や「中活ブック」の改善に生かした。
授業実践 各実践日	各実践の授業公開をし、校内の教師が参観することで、校内研修での学びをより深める。	全9回の実践日を事前に知らせ、全教員に授業を公開した(図11)。 6学年3クラスの授業を参観することで、具体的に「中活ブック」の内容をイメージし、校内研修での学びをより深めることができた。授業後は、Google Formsでアンケートを実施し、教員からの意見や質問を、その後の実践や「中活ブック」の改善に生かした。



図10 校内研修の様子



図11 授業参観の様子

V 研究の結果と考察

1 「中活ブック(児童用)」を作成と活用していくことは、児童の自己指導能力を高め、中学校進学への自信と希望を手に入れるために有効であったか。

(1) 実践を行った教師へのアンケートや聞き取り・児童へのアンケート・児童の記述や行動の結果

①児童の自己指導能力の高まりについて

自己指導能力に関する調査として、自作のアンケート「中活アンケート」を実践の前後で行い、自己指導能力の定義における「児童が、深い自己理解に基づき、『何をしたいのか』、『何をすべきか』、主体的に問題や課題を発見」「自己の目標を選択・設定」「目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断」「実行する力」のそれぞれの項目について児童の変容を考察した。値は、十分に高い状態を4としたときの、学年の児童（70名）の回答の平均値であり、左が実践前、右が実践後の結果を示している（図12）。どの値も上昇が見られ、特に「発見」についての上昇（0.18ポイント）が高かった。

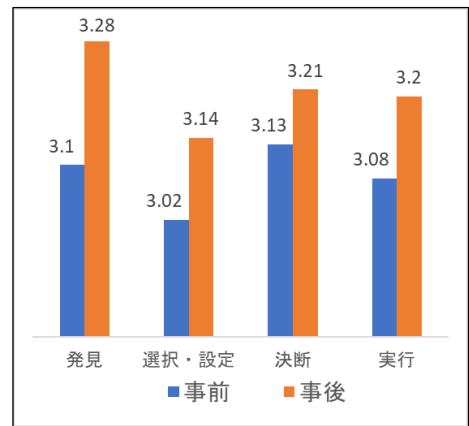


図12 6年生の自己指導能力

また、実践後の児童の振り返りから、以下の記述があり、児童の自己指導能力の高まりを見取ることができた。

单元ごとに自己指導能力を高めることができたので、「決断力」と「実行力」が身に付いてきました。この学習をして、中学生になることに向けて自信と希望を手に入れたと思います。

②中1ギャップの改善について

中1ギャップの改善における「自信」と「希望」に関する調査として、自作のアンケート「中学校進学に関するアンケート」を実践の前後で行い、「自信」と「希望」を構成する要素である「自信」「楽しみ」「不安」のそれぞれの項目について児童の変容を考察した。値は、十分に高い状態を4としたときの、学年の児童（70名）の回答の平均値であり、左が実践前、右が実践後の結果を示している（図13）。「自信」と「楽しみ」ではわずかではあるが上昇が見られた。また、「不安」については、児童の不安の気持ちがわずかに低下したことが分かる。

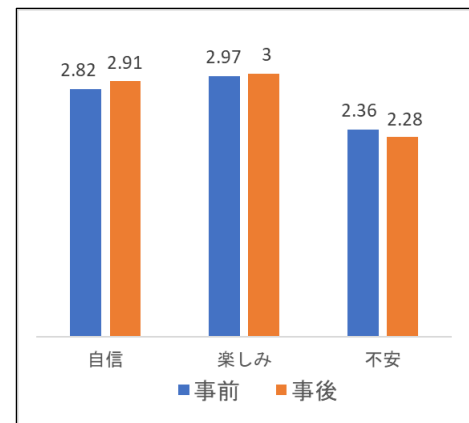


図13 中1ギャップの改善

6年生の中学校の印象に関する調査として、「あなたにとって、中学校はどのような場所か」という質問に記述で回答させた。そこで、中学校の印象に関する頻出語がどのように結び付いているかを探るために、KH Coderの「共起ネットワーク」コマンドを用いて、出現パターンの似通った語（共起の程度が強い語と捉える）を線で結んだネットワーク

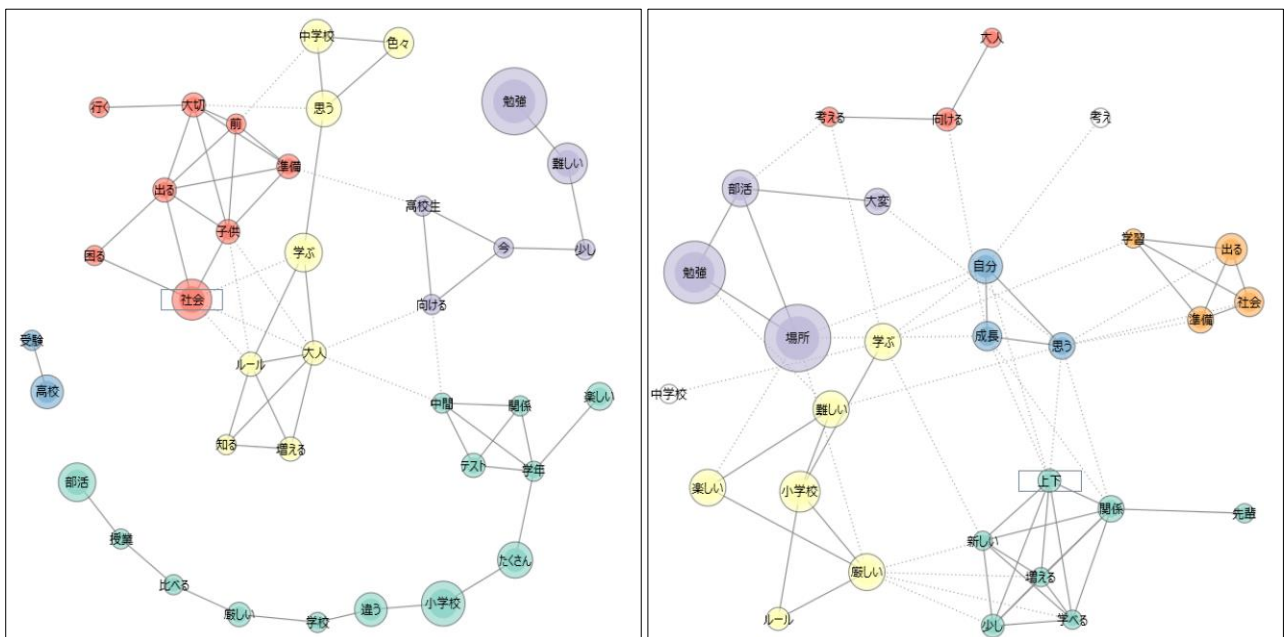


図14 中学校の印象に関する頻出語の共起ネットワーク（左図7月 右図12月）

図を作成し、語と語のつながりを可視化した（図 14）。左が実践前、右が実践後の結果を示している。実践後は、「成長」「自分」といった言葉が新出したり、そのつながりがあったりすることが分かる。また、「楽しい」といった言葉が新出し、「場所」とのつながりがあることも分かる。さらに、実践前と比べて実践後の方がそれぞれの言葉の結び付きが多く、児童の中で中学校に対する様々な印象をもつようになったことが分かる。

実践後の児童の振り返りから、以下の記述があり、中学校進学への「自信」と「希望」を手に入れていることを見取ることができた。

初めは、中学校へ向けての気持ちはマイナスな考え方の方がたくさんありました。でも、いろいろな方々が教えてくださったので、だんだんと中学校に向かう気持ちもプラスなものに変わっているなど感じました。完成しかけている中活ブックを見て、なんだか中学校に行くのがとても楽しみになって自信がわいてきます！特に、私が役に立ったと思うのは、「ストレスの対処」です。実際にやってみて、最近では、あまりイライラしないのでお話を聞いてよかったと思います。私は、勉強をがんばろうと思っていましたが、中活を通して、勉強の前に人間関係や生活習慣、ストレス対処など、中活シートでやったようなことから始めたら、勉強も安心してできそうだなと思いました。中活を勉強できてよかったです！

(2) 考察

このように、自己指導能力を高めるために、総合的な学習の時間の中でOODAループを活用した学習支援の工夫を繰り返し行い、児童一人一人が主体的に「中活ブック（児童用）」を作成していくことは、児童の自己指導能力を高め、中学校進学への自信と希望を手に入れることができたため、有効な手立てであったと言える。

2 「中活ブック（教師用）」は、児童の自己指導能力を高める支援のための教師向けの資料として有効であったか。

(1) 実践を行った教師へのアンケートや聞き取りの結果

研究協力校において、実践を行った教師を対象に、実践を通して得た教師自身の気づきや、児童の変容について、アンケートや聞き取りを行ったところ、以下のような回答があった。

①実践中

普段の学級活動や総合的な学習の時間でなかなか取り扱う時間がとれないテーマについて考える機会になり、児童にとってとても役に立ち、日々の生活でその効果も感じられる。また、普段の授業や日記でも見つめる力が少しずつついてきたと感じる。

②実践後

現在、児童は中学入学に対する期待は大きい。入学後に、この大きさと現実にギャップを感じる児童もいるのかもしれない。そこで、中活で学んだことが生きてくるのだと思う。事前に対策をとっていくことができたというところに大きな意味をもつ学習であったと思う。

(2) 考察

教師の回答から、実践前と実践後を比較すると、「中活ブック（教師用）」を活用したことで、その必要性や有効性を感じている意見が多く見られるようになった。また、OODAループを意識して行動する児童、自己指導能力の高まりが感じられる児童など、自己指導能力が高まったことによる児童の変容を感じている教師が多くいた。さらに、「中活」という事前の準備が中1ギャップの改善に価値があるという意見も見られた。これらのことから、「中活ブック（教師用）」は、児童の自己指導能力を高める支援をねらった教師向けの資料として有効であったと考える。

(3) 校内研修や授業公開に参加した全職員へのアンケートや聞き取りの結果

研究協力校において、校内研修や授業公開に参加した全職員を対象に、校内研修や授業公開に参加した意見や疑問について、アンケートや聞き取りを行ったところ、以下のような回答があった。

①校内研修

児童が自分をコントロールする過程を学ぶことで、様々な場面で応用ができるような子供を育てることが大切なのだ学びました。低学年でも、実践できる内容を積極的に取り組んでいきたいと思います。

②授業公開

児童の様子を見ると、初めはどこか他人事のように話を聞いている児童が多かったが、授業を重ねるごとにどんどん真剣に考え、前のめりになっていく様子が感じられた。中学校進学に向けた具体的なイメージができたことで、より期待が高まったのではないか。

(4) 考察

教師の回答から、「中活ブック（教師用）」について、校内研修や授業公開をすることで、その必要性や有効性を感じている教師が多く見られようになった。また、授業を参観することで自己指導能力を高める支援の工夫や自己指導能力が高まった児童の様子を目にすることができ、校内研修で得た知識を具体的にイメージすることができた。さらに、教師自身の学びから、自己指導能力を高めることにおいて他学年にも応用したいという前向きな意見を聞くことができ、「チーム学校」としての共通理解や連携につなげることができた。これらのことから、「中活ブック（教師用）」は、児童の自己指導能力を高める支援をねらった教師向けの資料として有効であったと考える。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 「中活ブック（児童用）」を作成することで、学校生活や総合的な学習の時間において、児童一人一人に決断する力や実行する力が身に付き、自己指導能力を高めることができた。また、児童が中学校進学に自信と希望を手に入れることにつながった。
- 「中活ブック（教師用）」を活用することで、教師が自己指導能力を高める支援について共通理解を深め、「発達支持的生徒指導」や「チーム学校」の取組の連携を図ることができた。
- 「OODAループ」に基づいた思考の整理や「4つの視点」を踏まえた授業展開をしたことは、自己指導能力を高める支援として有効であった。

2 課題

- 児童の自己指導能力を更に高めるために、「中活」を年間指導計画に位置付けたり、学校行事と関連させたりし、6学年だけでなく各学年に応じて計画的に一年を通して取り組めるように工夫していく必要がある。
- 一人一人に中学校進学に向けて課題意識を更にもたせ、中学校進学に自信と希望を更に高めることができるように課題の例示や発問の工夫をするなど、「中活ブック（児童用&教師用）」の改善や工夫が必要である。

VII 提言

「中活ブック（児童用&教師用）」は、自己指導能力を高める支援のヒントになる。また、学校の実態に応じて、学校生活や各授業において自己指導能力を高める支援の工夫を繰り返すことで、児童の自己指導能力を高めていくことができる。

<引用文献>

- 1) 国立教育政策研究所 (2014) 『「中1ギャップ」の真実』
- 2) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領』
- 3) 文部科学省 (2022) 『生徒指導提要』

<参考文献>

- ・ 文部科学省 「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」

<担当指導主事>

山田 雅之 田所 由美子